

(表4) 主要授業科目の担当状況 (学士課程)

学部	学科	教育区分		必修科目	選択必修科目	全開設授業科目
アジア太平洋学部	アジア太平洋学科	専門教育	専任担当科目数 (A)	0.0	363.0	363.0
			兼任担当科目数 (B)	0.0	46.0	46.0
			専兼比率 % (A / (A + B) * 100)	0.00%	88.75%	88.75%
		共通教育	専任担当科目数 (A)	241.5	273.5	515.0
			兼任担当科目数 (B)	121.5	130.5	252.0
			専兼比率 % (A / (A + B) * 100)	66.53%	67.70%	67.14%
国際経営学部	国際経営学科	専門教育	専任担当科目数 (A)	6.0	309.0	315.0
			兼任担当科目数 (B)	2.0	52.0	54.0
			専兼比率 % (A / (A + B) * 100)	75.00%	85.60%	85.37%
		共通教育	専任担当科目数 (A)	241.5	273.5	515.0
			兼任担当科目数 (B)	121.5	130.5	252.0
			専兼比率 % (A / (A + B) * 100)	66.53%	67.70%	67.14%

[注]

- 1 原則として学科単位で記入してください。
- 2 この表は、大学設置基準第10条第1項にいう「教育上主要と認める授業科目 (主要授業科目)」についての専任教員の担当状況を示すものです。
- 3 ここでいう「専任担当科目数」には、他学部、研究科・その他の学部教育担当組織等の専任教員による兼任科目も含めてください。
- 4 大学の設定する区分に応じて、「教育区分」の名称を記入してください。

- 5 「全開設授業科目」欄には、「必修科目」「選択必修科目」のほか、「選択科目」「自由科目」など、すべての授業科目数の合計を記入してください。「必修科目」と「選択必修科目」の合計ではありません。
- 6 セメスター制、クォーター制等を採用している場合であっても、通年単位で作成してください。
- 7 同一科目を週あたり2回実施している場合の計算方法は下記の通りです。
 - ①同一講師による場合→専任教員が担当した場合は専任担当科目数1、兼任教員が担当した場合は兼任担当科目数1となります。
 - ②複数教員による場合→専任教員が担当した場合は専任担当科目数1、専任教員と兼任教員がそれぞれ担当した場合は、専任担当科目数0.5、兼任担当科目数0.5となります。
- 8 兼任教員を含む複数の教員が担当する場合は、人数比による数値を記載してください。（例：専任4人、兼任1人で担当の場合は、専任0.8、兼任0.2となります）。

[大学注]

本表は2016年度の授業担当実績（2017年度4月以降に出力した出講簿）（2011年度カリキュラム科目）を基に作成された。

- 1 本学では大学院科目以外には必修科目を設置していないが、学部においては次の科目を必修と位置づけて本表に示している。

- ①日本語基準学生の英語科目
- ②英語基準学生の日本語科目
- ③1回生全員が履修する「新入生ワークショップI、II」（各2単位）
- ④国際経営学部1回生全員が履修する「経営学入門」（2単位）

2 学部2011年度カリキュラム生は、学部の要卒業単位構造として、「共通教育科目」から40単位以上、「専門教育科目」から62単位以上、それ以外に自分の学部または別の学部の「共通科目」または「専門教育科目」から22単位以上、という区分としている（2011年度カリキュラムの例：学生ハンドブック参照）ため、上記①～④以外の科目を選択必須科目と位置づけて本表に示している。

0

- 3 以上の理由により、「必修科目」と「選択必修科目」の合計が「全開設授業科目」となっている。
- 4 ある専門科目が、アジア太平洋学部および国際経営学部の両学部の学生を対象に開講された場合は、両学部の専門科目に科目数1を計上している。
- 5 複数の共通教育科目同士が合併されて開講されている場合は、それらの科目数の合計が1となるようにしている。
- 6 JLEPなどの、非正規生のみを対象に開講された科目については計上していない。